

## 歴史のデザイン

|           |  |          |
|-----------|--|----------|
| 授業科目名     | 歴史のデザイン  | 単位数 2 単位 |
| 英語標記      | The Design of History  |          |
| 授業コード     | 360120   |          |
| 受講人数      | 30 人   |          |
| 担当教員      | 桃木 至朗、内野花  |          |
| 対象        | 全研究科大学院生、社会人（5名まで）   |          |
| 開講時間等     | 第1学期＝火曜 5限(4月13日～)   |          |
| 開講場所      | 豊中キャンパス：文学部  |          |
| キーワード     | 学界解説、学術評論、学問間の対話、歴史、歴史学、歴史教育   |          |
| 授業の目的     | [科目サブタイトル] 現代世界の成り立ちを考え／語る。<br>[目的] 歴史学と歴史教育が置かれた現状、その危機の由来と再生の展望、他の学問分野との関係や比較、「社会」や「世界」とのコミュニケーションの4つの視角に注意を払いながら、諸分野の大学院生、高校歴史教員などが、現代世界の理解に「歴史」がどんな意義をもちうるかを大づかみに論じ合う、一種の「学問の異種格闘技戦」の訓練。                   |          |
| 講義内容      | [授業概要] 現代世界の歴史的な成り立ちについて、歴史や関連諸分野で重視されている代表的なテーマを選び、各分野混成グループを主体とした研究発表・討論をおこなう。<br>[授業予定] I. オリエンテーションと教科書の要約（2回）、II. 国家・民族単位の歴史を越える方法（4回）、III. 客観的事実だけの歴史を越える方法、IV. （文系の）成人男子だけの歴史を越える方法（4回）、V. 総合討論・まとめ（1回） |          |
| 教科書       | 桃木至朗『わかる歴史・面白い歴史・役に立つ歴史——歴史学と歴史教育の再生をめざして』（大阪大学出版会）  |          |
| 参考書       | 自分が使った高校の歴史教科書（あれば世界史・日本史両方、またA・B両方）。その他は授業中に紹介する。   |          |
| 成績評価      | 出席・発言などの平常点（60％）と、発表および発表の内容・結果に関するレポートなどの課題（40％）により評価する。  |          |
| 履修条件・受講条件 | 高校や大学での歴史履修歴、教職科目の受講歴はいっさい問わない。ただし中学レベルの歴史・地理や現代社会、自然や科学技術などの知識は必須である。   |          |
| その他       | この授業が求めるのは、専門の細かい知識・技能よりは、「有名大学の論述入試」が要求するレベルないしそれ以上の、論理的思考力と概括的な表現力である。経済・政治や科学技術、環境などあらゆる問題が過去を背負っている。人文学・社会科学系だけでなく、理系の院生の参加が強く期待される。   |          |

この授業は、阪大史学系が全国の高校教員と協力して実施している「大阪大学歴史教育研究会」（<http://www.geocities.jp/rekikyo/>）の成果をふまえておこなうもので、2学期の「歴史を構築する」とは相補的な内容をもつ。関心のある方は続けて履修していただくと、さらに理解が深まるであろう。文学部・文学研究科で開講されている一連の「歴史学方法論」科目受講者や歴史教育研究会の出席者が本科目を履修した場合には、既習事項の定着と視野の拡大に役立つはずである。